

おにごっこ

【低学年 2・3】

役割演技を取り入れた事例

(1) **主題名** 友だちと仲よく [2・3]

(2) **ねらい** いろいろな友だちと仲よく遊ぼうとする心情を培うとともに、素直にあやまつたり、許したりできる態度を育てる。

(3) **資料名** 「おにごっこ」

(4) **授業の展開例**

	学習活動	主な発問と生徒の心の動き	留意点
導入	1 心を開く。	自分の知っている虫の名前を発表しよう。 ・カブトムシ ・ちょうちょ	リラックスさせ、昆虫を通して資料への興味付けをはかる。
展開	2 資料を聞いて、役割演技を通して登場人物の心情を考える。	登場人物を確認する。 ・かぶくん、みやまくん、くわちゃん あげはちゃん 「つのおにごっこ」に決まりそうな時、あげはちゃんはどんな気持ちだったんだろうか。 ・かなしかった。 ・仲間はずれになりそうで、さみしかった。 ・他の遊びを考えてほしい。	虫の絵を用いながら資料を提示する。 会話部分を役割読みをしながら4ひきのセリフの続きを考 える。また、その中で友だちに謝ったりゆるしたりすると 気持ちがよいということを体験させる。 あげはちゃんもきちんと自分の思いを出すことが大切であることをおさえる。
開拓	3 仲よく遊べる方法について考える。	4ひきは、頭を寄せ合って何を相談しているのでしょうか。 ・みんなができる遊びは何があるかな。 ・「羽おにごっこ」はどうかな。 4ひきの顔はどんな顔になっただろう。 ・にこにこ顔	役割演技の中で課題の解決を図る。 4ひきの表情をワークシートの顔の部分に絵で描く。
終末	4 みんなで歌をうたう。	・これからも仲よくしようね。	「かくれんぼ」の歌をうたい、 楽しい雰囲気で終わる。

おひるいん

「」は、森の中、むしたちがあたまをよせあつて木のしづらつてあります。
かぶとむしの、かぶくん。
くわがたむしの、みやまくんとくわちゃん。
ちゅうちゅの、あげはりちゃんもいます。
四ひきは、いつもこつしょです。

おひるいんが、終わりました。

あげはりちゃん「ああ、おこしかつた。」
かぶくん「ほく、もつねなかいっぽい。なにかありましたよ。」
あげはちゃん「そうしょひ。そうしょひ。」
みやまくん「おにじかこがいにな。」
くわちゃん「うん、わんせい。つのねじりになんてじり。」
かぶくん「つにわわられたら、おににならんだね。」
みやまくん「しょひ。しょひ。楽しそうだね。」
あげはちゃん「えー。でも・・・・・わたし・・・・・」
くわちゃん「あれ? あげはちゃん、げんきないよ。どうしたの。」
かぶくん「そうか。あげはちゃんには、つのがないんだ。」
あげはちゃん「うん・・だから、いつしょにあそべないのかなあ。」
みやまくん「ごめんね。気がつかなくて。」
あげはちゃん「いいよ。」
くわちゃん「そつかあ。じやあ、みんなでできることを、考えてみよひ

「よ。」

四ひきは、また、あたまをよせあつて、あれこれと話してました。

あれあれ、四ひきがどびたちましたよ。
「一・二・三・四・五・・・・・」
「もういいよ!」
みんなでかくれんぼをして、あれぶつけてました。

四ひきは、() になつました。

活用に生かすための実践報告

「おにごっこ」

1 主題の設定

- ・低学年では、同じ班・同じ学級・一緒に遊ぶ仲間など、身近にいる友だちと仲よくし、助け合うことを指導する必要がある。本資料では、友だちと仲よく遊ぼうとする態度を育てたい。
- ・友だちとのかかわりの中で、素直に謝ったり、許したりできる態度を養い、信頼や友情・助け合いの精神へつながらせることにより、身近で楽しい居場所がつくれることを指導したい。

2 指導過程の工夫

- ・資料を分割提示し、役割演技することにより「待てよ・・・」と立ち止まり、あげはちゃんの気持ちをより深く考えることができる。
- ・役割演技の中で、教師があげはちゃん役になる方法を組み込むと「ゆさぶり」のある発問ができ、児童の思考が深められる。
- ・終末の「あげはちゃんはどんな顔になっただろう」は口頭で発表させてもよいが、絵で表現させることで、想像しやすくするとともに、書くことや発表することの苦手な児童にも効果的である。

3 発問の工夫

- ・「つのおにごっこにきまりそうな時のあげはちゃんは、どんな気持ちだっただろう。」という発問では、遊びに入れない寂しさや悲しさ、悔しさを考えさせることができる。
- ・「あげはちゃんに『いいよ。』と言わされた時のみんなはどんな気持ちだっただ

ろう。」という補助発問をし、自分たちの考え方の反省と許してもらえてホッとしたという安堵感を味わわせることができる。

4 児童の反応（授業後の感想）

【虫を提示した時】

- ・カブトムシになりたい、クワガタムシになりたいとほとんどの児童が反応し、やる気をもたせる導入ができた。

【あげはちゃんにいいよと言わせて】

- ・許してもらえてホッとしたとか、うれしかったという安堵感と仲間はずれをしてごめんねという反省が正直に出せた。また、自ら一緒に遊べる方法を考えて役割演技するなど深まりのある流れとなつた。

【みんなで遊べる方法】

- ・羽にさわればオニという「羽おにごっこ」や飛ぶ速さを競う「はや飛びおにごっこ」などつのにこだわらない工夫した考えを出すことができた。

5 実践者からの一言

- ・第1・2・3学年でそれぞれ実践してみたが、カブトムシ・クワガタなどの虫に興味がある児童が多いこと、また、虫は生活科とのかかわりもあるので、自分があげはちゃんだったらなどと、より身近に、そして深く考えることができた。実態に合わせてカマキリなど別の虫を加えてよい。「遊び」を通じて友だちのことを考えていけるよう指導したい。